

法学部生諸君へ

— 3つの学びの姿勢 —

法学部長 神谷 章生

すべての学生諸君にとって時間は平等に流れます。何かをしても、しなくても時間は経っていきます。しっかりと学びの姿勢を持った上での日々の積み重ねは、卒業時には大きな違いとなって現れます。法学部の学生諸君に次の3点に留意して学ぶことを勧めたいと思います。

【既知のことを疑ってみる】

すでに知っていることでも、視点を変えてみると、それまでは気づかなかった新しい側面が見えてくることがあります。「知っているつもり」、「わかっているつもり」のことを「本当にそうだろうか」と自ら疑ってみる習慣を持つことが重要だと思います。インターネットの普及によって、さまざまな情報が瞬時に手に入るようになりましたが、得られた情報をそのまま受け入れるのではなく、自分自身で内容を吟味する姿勢を持つことが大切です。

【自分で答えを探る】

何か新たな問題や局面に遭遇したとき、過去の知恵に学ぶことも有用ですが、学びの過程にある学生諸君にとって、自分で答えを出そうとすることがより重要です。もし、そこでうまくいかなかったら、その理由を考え、自分でさらに納得のいく答えを見つけ出していけばいいのです。失敗から学べることも多いと思います。一人で考えることには限界がありますから、周囲の様々な人たちと議論を行いつつ、考える幅を広げてみましょう。大学での学びには試行錯誤できる場所と時間があるのです。

【基本にもどる】

専門的なことを学び始めると、基本を軽視しがちになりますが、スポーツの一流選手ほど徹底して基本的な練習を繰り返すということをよく見聞きします。着実な基礎の積み重ねが、高い応用力をもたらしているのだと言えるでしょう。大学で学んでいて、基礎が足りないと気づいたら、そのことに目をつぶらずに、1から学ぶことも大切です。焦って先を急いでも時間を浪費することになりかねません。基礎を固めれば、そこから新たな可能性が出てくるはずですよ。

この履修要項は法学部の学びにおける道標であり、学びの目標や体系、履修できる科目群が記されています。この要項に従って、学習計画を立てましょう。具体的な内容はポータルサイト上のシラバスに書かれています。科目を選択し、履修が始まったら、上記の「3つの学びの姿勢」を思い出してください。法学部における諸君の学びが大きく結実することを期待しています。